

3.8.4.4水産業（増養殖類）

(1) 藻場

(ア)現在の影響状況

本事業において実施した自治体へのアンケート結果によると、現状では気候変動による藻場への影響として、磯焼けや亜熱帯性種の増加といった影響が報告されています。

(イ)将来予測される影響

本事業において実施した自治体アンケート結果によると、藻場の「分布域」「種組成」の変化や「藻場の減少」に関する影響についての情報提供が求められています。現状の研究状況に鑑みると、中国・四国地域を含んで定量的に影響評価が実施されている事例としては、瀬戸内海を対象とした「藻場の分布」があります。

■ 藻場分布

「藻場の分布」については、農林水産省委託プロジェクト研究の平成 29 年度研究成果発表会（2018）⁴⁷⁷にて研究成果が報告されています。ここでは当該結果について記載します。

【瀬戸内海】

1 つの排出シナリオ（RCP8.5）を用いて⁴⁷⁸、2050 年代の藻場の分布変化に関する将来予測が行われています（図 3.8-87）。なお、今後も藻場（コンブ目）が残る条件は、冬期に水温 15℃以下が 70 日以上、かつ夏期に水温 29℃以上が 6 日未満となる場所としました。予測の結果、RCP8.5 シナリオの場合、2050 年代になると瀬戸内海のごく一部にしかコンブ目藻類が残らないことが予測されました。

⁴⁷⁷ 吉田吾郎（2018）：気候変動による瀬戸内海～黒潮沿岸域の藻場の分布変化の将来予測，農林水産省委託プロジェクト研究「農林水産分野における気候変動対応のための研究開発」平成 29 年度研究成果発表会 地球温暖化時代の日本の農業・水産業～その変化と適応策～，ポスターNo.18，(<http://ccaff.dc.affrc.go.jp/conference2018/pdf/018.pdf>)

⁴⁷⁸ 引用文献には、使用した海洋シナリオ等の条件の記載は見当たりませんでした。

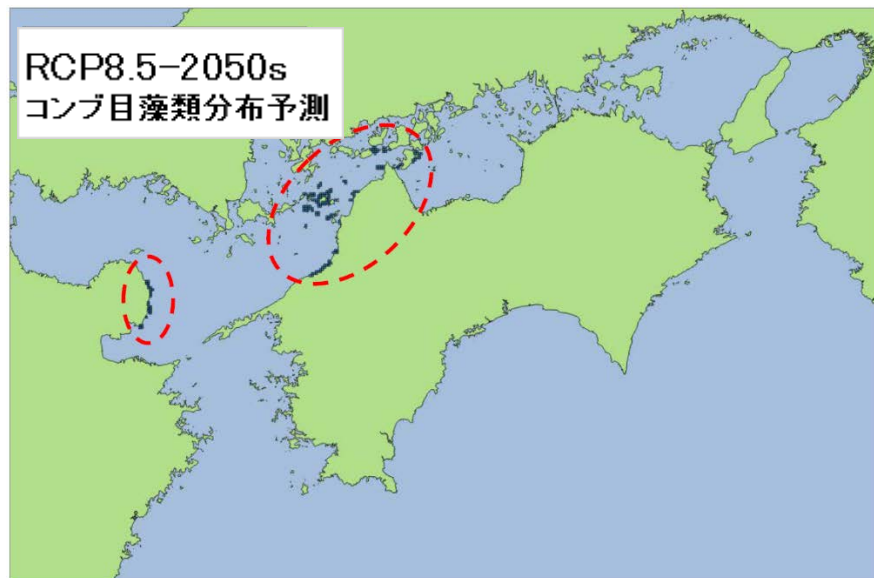


図 3.8-87 2050 年代 (RCP8.5) におけるコンブ目藻類分布予測
 温帯性コンブ目の生育条件 冬：水温 15℃以下が 70 日以上、夏：水温 29℃以上が 6 日未
 満

(ウ) 適応策

藻類への影響に対する適応策については、調査範囲内において地域で実施されている事例は見当たりませんでした。